

# JAみねのぶ



コープさっぽろ「お米を知る」田植え体験（5月28日）

■発行日/平成29年7月1日/No.1383号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社



出来上がったプランターと女性部の皆さん

## J A 女性部「花いっぽい運動」で 花プランター設置

6月7日、JA女性部（部長吉村俊子）が毎年恒例の花プランター作りを行いました。

今年も営農事務所の各出入口に2基ずつ、また本所ビルの生活

店舗出入り口と駅通り側出入口、峰延給油所に合計9基のプランターを作り設置しました。

赤や黄、青などの配色を考えながら苗を植え込みました。各店舗に御来店の際にはどうぞご覧下さい。

女性部の皆さん、ありがとうございました。

## 第1回監事監査終る

本年度の第1回目の監事監査が、4月末日を基準日として6月14日から3日間の日程で浅香代表監事以下3名の監事により執行されました。

監事監査の実施は一事業年度において四半期毎に年間4回が計画

されていて、今回は本事業年度で最初の監査となります。総会で議決された本年度の事業計画に対し四半期毎に本年度の計画並びに前年度実績と対比し事業の進捗状況を確認し合わせて会計処理の適正等も監査が行われます。

最終日に、浅香代表監事から常勤理事、幹部職員に対し監査講評が行われました。

## J A 全国監査機構の監査受ける

6月26日から28日までの3日間、JA全国監査機構の一般監査が実施されました。

J A全国監査機構の監査は全JAに対し毎年実施されていて、当JAは昨年5月末から6月上旬に受けています。監査機構の3人の監査士により、平成28年度決算の検証、各部門の内部統制について

監査が行われました。

最終日に、常勤理事、監事、幹部職員に対して監査結果の概要報告が行われました。

## 第5回（6月）定例理事会の開催について

6月28日開催の理事会において次の事項が決定されました。

### ◇付議事項◇

1. 農業経営安定化資金の創設について

2. 平成29年度クミカン取引に係る階層区分の設定について

3. 理事に対する平成29年度クミカン取引の貸越極度額等の変更について

## 一報徳

### 貧富の因果は明白

翁のことばに、貧となり富となるのは偶然ではない。富にもよつてきたる原因があり、貧にもよつてきたる原因がある。

人はみんな、財貨は富者のところに集まると思っているが、そうでない。節儉なところと、勉励するところに集まるのだ。百円の身代の者が百円で暮らすときは、富の來ることもなく貧の來ることもない。百円の身代を八十円で暮らし、七十円で暮らすときは、富が

そこに来、財がそこに集まる。百円の身代を百二十円で暮らし、百三十円で暮らすときは、貧がそこへ来、財がそこを去る。ただ分外に進むか、分内に退くかの違いだけだ。ある歌に、「ありといえればありとや人の思うらん呼べば答うる山彦の声」というように、世人は今あつてもそのある原因を知らず、「なしといえればなしとや人の思うらん呼べば答うる山彦の声」で、世人は今ないとときにそのないもとを知らない。およそ今あるものは今になくなり、今ないものは今にあるようになる。たとえば今あつた錢がなくなつたのは物を買つたからだ。今しがたなかつた錢が今あるのは働いたからだ。繩一房なれば五厘手に入り、一日働けば十錢手に入るのだ。今手に入れる十錢も、酒を飲めばすぐなくなる。明白疑いない世の中だ。中庸に、「誠なればすなわち明らかになり。明らかなればすなわち誠なり。」とあるように、繩一房なれば五厘となり、五厘やれば繩一房来る、青天白日の世の中なのだ。



菊池農園(6月26日)

## バスカップ狩り 6月26日から始まる

本年のバスカップ狩りは、昨年と同じ6月26日（月）から7戸の農園で始まりました。

農協には2週間ほど前から開園日の問合せの電話が相次いでいました。

開園初日は前日まで多量の降雨があり足元が悪い中、大勢のバスカップファンの皆さまが訪れ、熱心に実を摘んでいました。取材した菊池農園では開園初日9時で約20台収容可能な駐車場は満車状態でした。

### 《バスカップ狩り》

・期間：6月26日から約3週間

（ただし、バスカップの実が無くなり次第終了します。）

・開園時間：7時～17時

・料金：入園無料

・摘み取った実は全量持ち帰り1kg1100円

・問合せ先 JAみねのぶ販売企画課

（0126-67-2115）

「小林篤一翁顕彰公園」  
雑草取り行う

6月15日、小林篤一翁顕彰公園内の雑草取りを行いました。雑草取りを行つたのは、当JAの役員OBで構成する協栄会の皆さんで、毎年6月と9月の2回行っています。

午前8時から協栄会の皆さん7人と伊藤専務、安達常務、職員ら4人に応援の美助つ人俱楽部（代表 前川隆）の皆さん4人が集ま

り総勢15人で雑草取りを開始し40分ほどで作業を終えました。

役員OBの皆さんは久々に顔を合わせてお互いに近況などを話しながら作業に励んでいました。作業を終えて、高橋栄一副会長は当

日のお礼と秋にも雑草取りをお願いしたいと述べていました。

訪問先の組合員の皆さんには温床の後片付けや水稻苗の補植作業等を中断しての対応や早朝、夕方にも対応いただきましたことを厚く感謝申し上げます。今後は一俵でも多く出荷いただきますようお願いいたします。

米・麦・大豆の  
出荷契約終える

今年収穫される米・大豆等と来年収穫する小麦の出荷契約推進が5月29日から8日間にわたり行われました。



雑草取りを終えて

(平成28年度実績)

## JAやJA関連団体へ100%就職 大学・短大・専門学校・高校生大歓迎 第1回学生募集 JAカレッジ

- 60名・1カ年、全寮制・満24歳未満(平成29年4月1日現在)
- 大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日:9月9日・10日 ●願書受付:6月5日～8月14日消印有効 ●学校見学もできます

JAグループ職員養成校

お問い合わせ  
資料請求

**JAカレッジ**

一般財團法人 北海道農業協同組合学校  
〒069-0834 江別市文京台東町43-1  
☎0120-918-417 JAカレッジ 検索▶

-食育-

**コープさつぼろ「お米を知る」  
田植え体験 親子で田植え**

5月28日、コープさつぼろ組合員活動部の「お米を知る」田植え体验が峰樺三区の圃場で行われました。14名のコープさつぼろ組合員の親子が参加し、JA青年部、女性部と朝取り野菜生産者の会の皆さんのが応援を得て行されました。

J A担当職員から「今日植える品種は「ふつくりんこ」です。苗がこれから順調に生育するためには植える深さが大切なので、浅過ぎず深過ぎず、田んぼのコロで付けた印の土が盛り上がったところに1株ずつ丁寧に刺して下さい。」等と説明されました。

水田に恐る恐る裸足で入り土の感触に声が上がりました。水田に吸い付く足で転ばないようにバランスをとりながらも、時間とともに泥んこになつて慎重に田植え作業を行つていました。青年部員とJA職員は苗配り等でサポートし予定した面積の田植えは40分ほどで終了しました。

田植え終了後は足などについた泥を洗い落とし、自宅に持ち帰り稻の栽培ができるバケツ稻に挑戦。



真っ直ぐになるように慎重にコロ引き

J A職員から当JAが取り組む「香りの畦みちハーブ米」と「土生米（どじょうまい）」についてパンフレットを使い詳しく説明がありました。JAが用意した生きたどじょうに子どもたちは興味津々、希望者は持ち帰りができると告げるとバケツ稻のバケツにどじょうを入れ「土生米を作る！」という子供もいました。

また、JA職員から、米の食べる以外の用途として「お米糊」が



親子で田植え

説明され、「米を原料した糊は昔から使われていて300年もち、今でも障子職人は、このお米糊を使用しています。」と説明があり、お米糊を使用して本日の表題を作成し、みんなで集合写真を撮影しました。

昼食は、農産物検査場所で、参加者全員で峰延産ハーブ米なつぼしを使用したカレーライスと採れたてのアスパラガス、おかわりが続出していました。昼食の準備はコープさつぼろの担当者と女性部、朝取り野菜生産者の会の皆さんが担いました。



昼食は峰延産米のカレーライスとアスパラ



青年部と女性部の皆さんサポート

今回植えた稻は、9月に稻刈り作業体験、10月に脱穀作業が予定されています。



新酒発表会(6月2日 平安閣)で  
挨拶を述べる森川組合長



新酒発表会(6月8日 JA三階)

当JAの酒「一圓融合」の今年の新酒が完成し発表会を催しました。

当JA創立100周年を機に取り組んだ地元産の酒米を原料とした酒造りは製造3年目となります。「一圓融合」の原料は酒造好適米「きたしづく」で浅香邦彦さん(光珠内)が生産、小林酒造(栗山町)が醸造した精米歩合45%の米でアルコール16度の純米大吟醸です。2000本製造し、当JA店舗のほか一部のコーポレートで販売。

## 「一圓融合」今年の新酒発表

店舗で720入り2500円で販売。

## J.A共済一齊推進終わる

本年度の長期共済一齊推進は、6月12日(月)から5日間の日程で実施されました。

例年通りJA職員とJA共済連の応援2名による2班体制で組合員宅に出向き推進を行いました。また、今回の一齊推進に先立つて、5月18日にJA共済連職員が講師となり推進に当たる職員を集めて研修会が開催され、推進の必要性や推進のポイント等を研修しました。

今回の一齊推進では、仕組改定のあった建物更生共済を中心に入院共済、コンパイン等にご加入いただき、保障額で15億9千万円の推進結果となりました。ご加入に対して厚くお礼申し上げますと共に各戸への訪問の際には農作業を中断してご対応いただき感謝を申し上げます。

今後は推進期間中にお会いできなった方を含め再度訪問いたしますので宜しくお願いいたします。

### 6月1日から郵便ハガキの料金等が値上がりしています

本年6月から郵便料金が改定さ

れています。郵便料金の改定は消費税が8%に上がった平成26年以来3年ぶりで、消費税に関係なく郵便料金が改定されるのは23年ぶりになります。

今回の改定では、通常ハガキと往復ハガキ、定形外郵便、ゆうメールが値上げされました。

### ▼通常ハガキ 52円→62円

### ▼往復ハガキ 104円→124円

※現在手元にある旧料金の郵便ハガキは引き続き使用できますが、新料金(62円)との差額分は郵便切手を貼り足して使用できます。

※年賀ハガキの料金は変更されません。

### ▼定形外郵便物

A4サイズの用紙が折らずに入る角形2号封筒程度の大きさ、厚さ3cm、重量1kgを超えるものの料金を新たに設定し、この規格に収まるものは据え置き・一部引き下げられました。

### ▼ゆうメール

主に本や冊子、カタログ等を送る際に格安で利用されていて、定形外郵便と同様に、重量での料金分けに加えて、所定規格の収まるかどうかによって料金が区分され



第1回はみそ作り



どじょうを放流した皆さん

## みそ作り・ジャム作りの皆さんに「峰千加」と命名

かねてより、料理や加工技術を学び合うため活動をしていた組合員有志の皆さんに、この度「峰千加（ほうせんか）」という名前がつきました。

当会については、JAみねのぶ管内の男女年齢を問わず有志を募り、食に関する様々な知恵や技術を融合し、食育、加工、販売などを行いう会です。興味のある方は、JAみねのぶ農業経営課（☎ 67-2333）までご連絡いただきますようお願い致します。

## どじょうを水田に放流

6月21日、光珠内の井上耕太郎さん（米づくりを考える会会長）

の圃場で土生米のどじょうの引渡と水田への放流が行われました。

会員の生産者は持ち帰ったどじょ

うを各自で面積に応じて放流しま

した。放流されたどじょうは6月

下旬～7月上旬までに産卵・孵化

が始まり、孵化したどじょうは田

んばの土に潜り越冬し来年もまた

田んばの中で生息し続けます。ま

た、新規取組者については今後、JA担当職員にて産卵・孵化・稚

魚の調査を行う予定です。

## 加藤禎行さん北海道指導農業士 称号授与を祝う会を開催

6月23日、当JA三階会議室で、

加藤禎行さん（豊葦第一）の北海道指導農業士の称号授与を祝う会が開催されました。

空知農業改良普及センター、美唄市役所、関係組合員の皆さん、JA役職員等55名が集まり加藤さんの称号授与を祝いました。

本年2月16日に札幌全日空ホテルで開催された平成28年度北海道指導農業士・北海道農業士称号贈呈式で指導農業士54名、農業士55名が新たに北海道知事より称号を授与、美唄市では当JAの加藤禎行さんが指導農業士、内山裕史さん（JAびばい）が農業士の称号を授与しました。現在美唄市では、指導農業士6名、農業士14名が認定を受けています。当JAでは、平成14年度に称号を授与された吉村俊子さん（光珠内北）がいます。

とても活躍が期待される農業者を市町村長の推薦により知事が認定する制度です。

加藤禎行さんは、以前から行つてきた活動が大きく評価されたもので、今後の地域農業リーダーとしての活躍が期待されます。

北海道指導農業士は、次代の担い手の育成指導や地域農業の振興等に対する助言、協力をを行う優れた農業者の活動を助長する目的として昭和46年に創設され、経営実績が優れ、担い手育成に強い熱意と指導性があり、地域のリーダー



【連載】今こそJA!～その意義と役割～

## 第3回 ロッチデール公正先駆者組合はなぜ生まれたか?



\*ロバート・オウエン  
(1771~1858年)  
イギリスの社会運動家。協同組合運動の父といわれる。

19世紀半ば、イギリスの労働者は低賃金による生活苦にあわせて、生活用品の高騰、さらに商品の品質や重量を偽って設ける悪徳商人が横行するなど劣悪な生活環境におかれています。

こうした中、1844年、社会運動家ロバート・オウエンの考え方をもとに、イギリスのランカシャー州にあるロッチデールという小都市で織物職人28名が1人1ポンドを出し合い、協同組合を設立することに成功しました。これが世界初の協同組合である「ロッチデール公正先駆者組合」です。その形態は現在の生活協同組合と同じものと言われています。

この組合が成功した理由の一つとして、組合員が自ら出資金を拠出し合い、必要なものを協同で調達して分け合う仕組みをとったことです。これは他人任せではなく、自らの暮らしを協同の力で守るということが根底にありました。

もう一つは、組合員が運営するためのわかりやすいルールを定めたことがあります。1. 購買高による剩余金の分配、2. 品質の純良、3. 取引は市価で行う、4. 現金取引、5. 組合員の平等(一人一票制)、6. 政治的・宗教的中立の原則、7. 組合員の教育促進、などを運営原則として定めました。これは「ロッチデール原則」と呼ばれ、その後いくつかの修正を経ながら今日の協同組合原則に受け継がれています。

ロッチデール組合の設立から172年後の現在、協同組合は世界で組合員数が10億人を超える組織に成長したのです。

## JA配置薬の 腸活キャンペーン!!

### 対象商品のご案内



〈30包〉3,000円(税別)



〈31包〉2,200円(税別)

### 補酵素のちから



〈1000ml〉各2,800円(税別)

毎月  
20名!

### 選べるグルメプレゼント



A : 五島軒セット B : どろぶたギフト詰め合わせ C : びらとり和牛極上700g D : 多良の子虎杖浜500g

●キャンペーン期間：2017年5月1日～7月31日までにご購入分

●お問合せは北海道厚生連配置薬課0120-99-4193か、お近くの配置薬推進員まで

三浦 真希子：090-6211-6997

# JAグループ通信

No.12

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。  
 JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、  
 組合員の皆様に定期的にお伝えします。  
 各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



日EU・EPA交渉が大枠合意に至る可能性が高まっていることから、6月14日「日EU・EPA交渉から北海道農業を守り抜く要請運動」を実施し、日EU等経済協定対策本部（自民党）の幹部役員、道内選出与野党国會議員及び農林水産省に要請を行いました。乳製品、豚肉、小麦粉調製品、馬鈴しょ、でん粉等が大きな焦点になると想定されますが、十分な情報提供がないまま大枠合意に向うことに大きな不安が広がっています。引き続き、政府・与野党に対して衆参農林水産委員会決議(H28.12)に基づき、農林水産物重要品目の再生産を可能とする国境措置の確保や交渉内容・進捗状況について丁寧な情報提供を求める運動を開いていきます。

日EU・EPA交渉が大枠合意に至る可能性が高まっていることから、6月14日「日EU・EPA交渉から北海道農業を守り抜く要請運動」を実施し、日EU等経済協定対策本部（自民党）の幹部役員、道内選出与野党国會議員及び農林水産省に要請を行いました。乳製品、豚肉、小麦粉調製品、馬鈴しょ、でん粉等が大きな焦点になると想定されますが、十分な情報提供がないまま大枠合意に向うことに大きな不安が広がっています。引き続き、政府・与野党に対して衆参農林水産委員会決議(H28.12)に基づき、農林水産物重要品目の再生産を可能とする国境措置の確保や交渉内容・進捗状況について丁寧な情報提供を求める運動を開いていきます。

## J A 北海道中央会



## J A 北海道信連

5月に、JA窓口職員のスキルを向上し、JA窓口をご利用いただく皆様のニーズに応えていく事を目的に「JAバンク北海道窓口セールスコンクール」を開催しました。

当団は、各地区の予選等を突破した16名が「年金指定替部門」「新規推進部門」の2部門で接客や提案力を競いました。JAバンク北海道では、コンクールを通じて、より一層のお客様の満足度向上を目指して参ります。



ホクレンは、酪農生産基盤強化対策の一環として、北海道特有の冬場の子牛事故率低減に向けた「冬期子牛飼養環境向上支援事業」を実施しておりますが、平成29年度から和牛繁殖農家の皆様に対する事業「冬期子牛飼養環境向上支援事業(和牛版)」を始めました。具体的には、出生直後の子牛を暖める機械装置や分娩監視モニター等の導入助成を行います。詳しい日程・事業内容については、JA担当課へ問い合わせください。



## ホクレン



## J A 北海道厚生連

北海道厚生連では、イメージキャラクター「コウセイくん」を作りました。医療をイメージした白い北海道の緑を取り入れた、のんびり優しい性格のシロクマくんです。今後、様々な場面で登場しますので、癒されるキャラクターとして親しんでいただきたいです。



社会貢献活動の一環として、昭和50年から継続して道内各自治体へ救急自動車を寄贈しています。道庁総務部の危機対策課へ寄贈先の選定審議を依頼しており、今年度は4台を寄贈予定。今年度の寄贈が完了すると累積寄贈台数は記念すべき200台を超え、202台を数えることとなります。今後も行政やJAと連携を図りながら交通事故防止と被害者救済への取組みを強化し皆様の為に貢献して参ります。



## J A 共済連北海道

